

デュアルシステムについて (担い手不足・自己適性を知る)

- できる部分から始める
- 伝統芸能の担い手を←地元に残る子どもたちだから
- アカモクの加工⇒手間がかかる⇒企業が手を出していない素材
- 亀谷さん 例えば・・・
ねぎの先がダメになっていたら
⇒刻み⇒オカラ(付加価値)⇒出口
⇒地元企業と協力・連携しやすい
- 現場に来てほしい そのラインで
デュアル現場とのマッチングして送り出す(地域貢献)
- 障がいのある方の働く場を考えるネットワークある
意見交換の中で⇒見つけていく チャンスあり
- 地域のおたよりに掲載するイラストに謝金を渡しても良いのではないか。
- 地域(江津市)のコミセンにきてもらい、できることをみつけてみてはどうか。

企業としての余力(支援)ある所でないと受け入れられない

新たな作業班における

官公庁や事業所と学校が連携した取組について

- 地域では 魚の活用は民間でもやっている
米粉は難しい
⇒ねらいが重なる 企業も事業所も一緒にできると良い
- 伝統工芸⇒いわみ福祉会でも以前からしている
和紙(こうぞから) グッズもよい
- 販売の場は? 他事業所と一緒にどうか
- 教員の学びが必要⇒事業所・企業で体験
- 商品の工夫 母子手帳に地域らしさを・・・
- 新たな作業班⇒活動広がる
- 廃棄する野菜(企業より)
- 就労をワンクッションおいてから
学校活動 福祉会 企業へ
- 県立大学の取組 地域のこと(アイディアあるが作業はできない)⇒浜田養護で作業(企業との連携必要)
循環するサイクル

今後話し合いに生かしていきます